|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2020年10～12月期） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2020年10～12月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－26.1で、前期より8.0ポイント増加し、２期連続で上昇した（図１）。

業種別にみると、製造業は－29.2（前期より11.6ポイント増）、非製造業は－25.4（前期より6.7ポイント増）となり、ともに２期連続で上昇した。ＤＩの上昇幅は、製造業が非製造業より大きかった。

非製造業を業種別にみると、全業種でＤＩが上昇したが、上昇幅は７～９月期よりも小さかった（図２）。卸売業は、他の業種よりは上昇幅が大きく、前期より15.9ポイント上昇した。

経営上の問題点は、「建設業」を除くすべての業種において「需要の停滞」が１位の課題であるが、その割合は前期に続いて減少した（図３）。

一方、製造業では「製品ニーズの変化への対応」が３位、小売業とサービス業では「消費者（利用者）ニーズの変化への対応」が２位、卸売業と小売業では「大企業（大・中型店）の進出による競争激化」が３位で、それらの割合は前期より高まった。

需要減少がやや和らぎ、構造的な課題の割合が高まっており、景況の持ち直しを反映した結果となった。

2021年１～３月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－26.4で、今期より0.3ポイント悪化と、ほぼ横ばいの見通しとなっている。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第162回中小企業景況調査（2020年10—12月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第162回中小企業景況調査（2020年10—12月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第162回中小企業景況調査（2020年10-12月期）